

検討経過

- プロモーション委員会では、2022年5月から9月まで4回にわたり、2030年大会の開催意義について議論

回数	開催日	開催概要（開催意義の議論のテーマ等）
第1回	令和4年5月10日	・委員会設置の目的・ねらい、取組のロードマップ
第2回	令和4年6月10日	・「共生社会」に係る基調講演・議論
第3回	令和4年7月26日	・「レガシー」に係る基調講演・議論
第4回	令和4年9月8日	・「SDGs／経済・まちづくり」に係る基調講演・議論

- 委員から寄せられた様々なご意見を「大会開催意義の取りまとめ」として整理し、2022年10月27日開催の第5回委員会に提出

- 取りまとめた内容は、
 - 「2030年大会概要（案）更新版」、「IOC将来開催地質問状への回答」
 - 将来の大会組織委員会の取組
 - 札幌市のまちづくり計画 などへの反映を想定

- さらに、国内外へのわかりやすい発信を目的に、
 - 開催意義のポイントを端的に整理した「大会コンセプト」
 - 招致の目指す方向性を一言で表す「招致スローガン」を策定

- 今後は開催意義の理解促進や招致機運の醸成に活用

招致スローガンについて【第1編／第1章】

- 今後の招致機運醸成を図るため、招致の目指す方向性を一言で表す「招致スローガン」を策定
- 詳細の検討にあたっては、ワーキンググループ（WG）を設置し、インターネットでも広く意見募集を実施
- その結果を踏まえ、WGで最終案を策定し、10月27日の第5回委員会で承認（※具体的内容は別途公表）

大会コンセプトについて【第1編／第2章】

- プロモーション委員会での議論では、開催意義を対外的にわかりやすく発信することも非常に重要との認識が示されたことから、これまでの議論を踏まえ、開催意義のポイントを端的に整理した「大会コンセプト」を策定

■ 天然雪を守り、北海道・札幌から、世界に誇れる大会に。

札幌、北海道の豊富な天然雪と豊かな自然は、世界を魅了し続ける私たちの誇り。SDGs「行動の10年」、気候変動対策「勝負の10年」の目標となる2030年へ、私たちの誇りを守り、雪と氷の上で躍動するアスリートの姿をみて、夢や希望を描ける未来を子どもたちに残したい。私たちのアイデアと行動の輪を、北海道・札幌から世界へ。

■ 私が自分らしく生きられるまちで、社会で、誰もが参加できる大会に。

誰もが生涯健康で、人種、肌の色、性別、性的指向、性自認、言語、宗教、障がいの有無などに関わらず、互いを認め、協力し合える私たちのまちに、社会にしたい。ジェンダー平等を広げ、初のパラリンピックでバリアフリーを進め、冬でも誰もが快適に暮らせるまちに。アイヌの人々とともに、2030年、北海道・札幌で多様性が生み出す価値を世界と分かち合い、一人ひとりが主役となる大会にしたい。

■ 北海道・札幌が挑戦する、私たちの新しい大会に。

既成概念にとらわれない、新たな挑戦。大会を、私たちのまちに合わせて開催。大会のための恒設会場はつくらず、徹底的に合理的な計画で、世界のアスリートが凌ぎ合い、称え合う、スポーツの本質と価値に集中。2030年、私たちの想像力と創造力で、人々に卓越した体験を届け、歴史の転換点だったと人々が記憶する大会に。

大会開催意義について【第2編／第1章～第4章】

第1章 誰もが暮らしやすい共生社会の実現

- 1 北海道・札幌における共生社会のまちづくり・地域づくり
- 2 大会開催を通じた共生社会実現への貢献
- 3 パラリンピック教育の推進
- 4 パラリンピック・パラアスリートの役割と東京2020大会のレガシー
- 5 ジェンダー平等の更なる推進

主な内容

- ・雪と共存し、雪がある生活に誇りが持てる街・地域へ
- ・あるべき「共生社会」の姿の具体的設定（イメージの見える化）
- ・子どもたちや若い世代に対する価値や意義の発信
- ・パラリンピック・パラアスリートのパフォーマンスを通じた共感
- ・ジェンダー平等の強い打ち出し など

第2章 次世代につなぐ気候変動対策

- 1 気候変動とウィンタースポーツの危機
- 2 気候変動と大会のあり方
- 3 アスリートが気候変動対策への意識にもたらす好影響
- 4 人々やコミュニティを巻き込んだ気候変動対策

主な内容

- ・気候変動とウィンタースポーツの危機
- ・気候変動に対するコミットメントと取組
- ・アスリートがもたらす好影響
- ・ウィンタースポーツコミュニティにおける気候変動対策 など

第3章 未来に向けた経済・まちづくり

- 1 観光立国・日本としての冬の魅力
- 2 札幌、北海道の地域づくり
- 3 スポーツを通じた子ども・若い世代への教育

主な内容

- ・雪がある素晴らしさ、継続的なインバウンド効果の獲得
- ・未来のまちづくりへの投資
- ・大会をきっかけとした具体的なまちづくりの展開
- ・子どもたちと「世界」との交流、若者世代の希望となる大会へ など

第4章 北海道・札幌2030大会がもたらすレガシー

- 1 過去大会から学ぶレガシー
- 2 まちづくりのレガシー
- 3 次世代の人々に向けたレガシー
- 4 レガシー構築の視点、プロセスと発信の仕方

主な内容

- ・東京2020から北海道・札幌2030へ
- ・大会開催による市民生活の向上
- ・子どもたちや若い世代が主体的に大会に関わることで築くレガシー
- ・レガシー構築の視点・プロセス など

【参考】クリーンな大会に向けた宣言について

東京2020大会組織委員会の元理事の受託収賄容疑での逮捕を受け、第4回プロモーション委員会（9月8日開催）において、公益財団法人日本オリンピック委員会山下会長と札幌市秋元市長の連名で、将来の大会の組織及び運営面の改革に取り組む決意を示す宣言を共同で行い、委員会において内容を確認した。

<主な検討事項>

- ・適正な理事会の確保、理事会の役割の明確化等
- ・利益相反に関する考え方の明確化（ポリシーの策定など）等
- ・マーケティング事業における組織委員会としての意思決定プロセスの在り方等